

社会科学習指導略案

日 時
場 所 教室
学習者 1年
指導者 野 澤 敬 之

1. 単 元 名 経度・標準時・時差

2. 本時の目標 日本とブルキナファソの首都ワガドゥグーの位置関係から経度に着目させ、日本とブルキナファソの時差を計算によって求めることができる。

3. 展開計画

段階	指導者の活動	生徒の活動	○評価（と支援）*留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ブルキナファソにいる熊谷さんのメールを紹介する ○ブルキナファソの首都ワガドゥグーを探させる ○地球儀を使った時差に関する説明 ○学習課題をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○メールを見る ○ブルキナファソの首都ワガドゥグーを探させる ○説明を聞く ○学習課題をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価（と支援）*留意点 *メールのプリントの配布 *およその経度を確認しておく ○ワガドゥグーを見つけることができる〔観察〕（C→地図帳索引の利用の仕方を確認させる）
	<p>めあて・・・午後の6時にブルキナファソにいる熊谷さんに電話するとすれば、日本時間の何時に電話をかければよいか。</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○何がわかれば計算できるかを話し合わせる ○調べさせる ○まとめに必要なキーワードを確認させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算に必要なことを話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・日本とブルキナファソの時間 ・日本とブルキナファソの時差 ・日本とブルキナファソの経度 ○調べる <ul style="list-style-type: none"> ・経度15度が1時間のずれ ・国や地域ごとに標準時が設けられている ・ワガドゥグーの経度は0度。 ・日本は、明石市の経度135度が標準時 ○まとめに必要なキーワードを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> *班での話し合い ○資料の読み取りができる〔観察〕（C→読み取るべき資料のページを確認させ、調べさせる） *班全体でまとめを考える
終末	<p>まとめ・・・$(135 - 0) \div 15 = 9$。日本とブルキナファソの首都ワガドゥグーの時差は9時間なので、ブルキナファソの午後6時に電話をするためには、日本時間の前日の午前3時に電話すればよい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言葉でまとめられる〔プリントの点検〕（C→キーワードを確認後に班員と相談させる）
	<ul style="list-style-type: none"> ○午後6時にバンコクにいる松井先生には、日本の何時に電話すればいい？ 		

資料

横浜中学校 野澤〇〇先生

お元気ですか。お変わりなくお過ごしでしょうか。私は元気です。私もブルキナファソにきてもう少しで2年が経とうとしています。あたたかいブルキナファソの人達に囲まれて毎日楽しく過ごしています。

私の家には電気、水道がありません。最初来た時は、これから2年間電気、水道のない生活が続くことに不安を抱きましたが、現在ではランプの灯りをロマンチックと思えるほどになりました。バケツ一杯の水浴びで頭から足まで洗えることも発見しました。日々前向きに生活しています。

ブルキナファソの人達は、習慣としてあいさつをした後に必ず、「あなたのお父さんは元気ですか、お母さんは元気ですか、子どもは元気ですか」と聞かれます。私もいつも聞かれ、一人でこんな遠い国にきて家族は心配しているでしょうとみんなに気を遣われています。私はブルキナファソにきて改めて家族がいるありがたみに気付かされました。

もう少しで私も日本に帰ります。ブルキナファソの人達と別れるのが本当につらくて、時間がとまってくれないかなと思うくらいですが、私にも大事な家族が日本で待っているので残りの一日一日を大切に生活していきたいと思います。

それでは日本で会えることを楽しみにしています。

熊〇 〇子



現地の小学校。5クラスあり、ひとつのクラスに80名くらい生徒がいました。学校では公用語のフランス語で授業が行なわれています



ワニがいる湖です。生きたニワトリをいけにえにワニに食べさせている間に写真を撮パチリ！



講習会の様子でこれはモミカラを炭にした土壌改良剤です。



地酒ドローのみ場。日本のどぶろくのように私は大好きです。一杯5円。

実践について

(1) 学校教育と国際理解教育の関係

国際理解教育とは何か？国際理解教育の領域がどこまでなのか・・・は、議論の分かれるところではある。学校教育においても国際理解教育の必要性が叫ばれて久しい。しかし、学校教育においては、国際理解教育という教科が存在しない。つまり、教科や道徳・特別活動の領域の中で、教科等それぞれの目指す目標を達成するための手段として、または教科等それぞれの目標と国際理解教育の目標を両方達成するために、国際理解教育を実践していくことになる。

(2) JICAとの連携

学校教育の中でJICAとの連携を考えると、最初に浮かぶのは「出前講座」ではないだろうか。目指す生徒像があり、その手段として出前講座をお願いすることになるだろうが、そこには、単元の展開計画があり、事前・事後指導も当然必要になる。さらには、講師の交通費や何の時間（教科なのか道徳なのか・・・）を利用するか、学年や学校全体での共通理解などなど、多くのハードルをクリアしなければならない。

今回の実践は、JICAデスクの持っている豊富な経験と知識・資料を教材の一部として提供してもらうことによって、社会科の目標を達成しようとしたものである。これは、「出前講座」よりも簡単にJICAとの連携を図れるだけでなく、学校教育とJICAとの連携のあり方をさぐる1つの実践になるのではないかと考えている。

(3) 実践の背景

例えば、アメリカという国名との地図上での位置や大統領名は良く知っているが、ブルキナファソの国名や位置は知らない生徒が多い。つまり、先進工業国に関しては知っているが発展途上国は知らないのである。これは、マスコミによる情報量にも影響されていると考えられるが、地球市民としては、発展途上国も当然必要とされる情報の一部だと考えられる。

発展途上国については、開発教育の参加型学習を通して積極的な知識の修得がなされることが期待できる。しかし、行事や教材の精選をしながら、学校教育の中にどれだけの開発教育の実践ができるかといえば、多くは期待できないであろう。そこで本実践は、先述の通り社会科の授業として「国際理解教育」を実践していくための足がかりとするものである。時差の学習の導入部分にJICAデスクから提供してもらった情報を提示することによって、「ブルキナファソ」の国名、地図上での位置、簡単な国の情報を知ることができるのである。しかし、本時の目標は時差の計算ができるようになることであり、ブルキナファソの情報は、あくまで付帯的であるということはいうまでもない。

本実践は「地図帳の活用の仕方」の後に学習する。実は、「地図帳の活用の仕方」が伏線になっているのである。この授業では、「マリ」や「ブルキナファソ」、「コートジボワール」、「コスタリカ」といったアフリカや中米の発展途上国が登場する。「地図帳の活用の仕方」については、以下の東京書籍のWebサイト「東書Eネット」で学習指導案をみることができるので、「全資料検索」に「地図帳を活用しよう」と入力してご覧いただきたい。（ただし会員サイトなので、会員でない方は無料の会員登録を行った後でなければ見ることができない。）<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>

ブルキナファソからのメールを、本時の導入として利用しているが、導入としては深い内容なので、特別活動としての国際理解や選択社会科としての資料としても利用できそうである。

1年社会科（地理的分野）ワークシート

3. 経度・標準時・時差

1. 学習課題をつくる

めあて・・・

2. ワガドゥグーが午後6時のときに、日本が何時なのか予想する

()

3. 調べる

()

4. まとめる

まとめ・・・

ところで、()